

厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）
相談支援センターの機能の評価と地域における活用に関する研究
（研究代表者 高山 智子）

平成 24-25 年度 総合研究報告書

がん相談支援における事例検討方法と事例検討の学習方法に関する検討
～「事例検討の方法を学ぶ」ワークショップ開催結果を通して～

研究分担者	高山 智子	国立がん研究センターがん対策情報センター
研究協力者	鈴木 幸一	福島労災病院
	福地 智巳	静岡県立静岡がんセンター
	橋本 久美子	聖路加国際病院
	横川 史穂子	長野市民病院
	小郷 祐子	国立がん研究センターがん対策情報センター
	櫻井 雅代	国立がん研究センターがん対策情報センター

研究要旨

【目的】がん相談支援において、個々の対応方法の質を高めるための手段を学ぶこと、また学び方について普及することは重要である。そこで、がん相談支援の事例検討方法と事例検討の学習方法を学ぶことを目的にワークショップを開催し、事例検討を各施設や地域で進めていく際の課題について検討を行った。

【方法】全国のがん診療連携拠点病院のがん専門相談員を対象に、がん相談支援における事例検討の方法を学ぶワークショップの開催を呼びかけ、1 日プログラムのワークショップを開催した。内容は、講義、演習で構成した。演習では、参加者全員による模擬事例検討会、および事前に提出された事例を基にした模擬事例検討を行った。

【結果】11 名の参加者によるアンケートの結果は、ほとんどの者が、事例検討の過程、限界、グループダイナミクス的重要性について理解を深め、自施設や地域で事例検討に取り組むことができそうであると回答した。

【考察】事例検討に関する知識の獲得、模擬事例検討会の体験が、事例検討会開催の契機となり、相談支援のスキルアップに貢献する可能性が示唆された。また、事例検討の目的の明確化や、作法、限界などについて相談員が知識を得ておく必要性が明らかになった。このワークショップを通して得られた学習項目、内容、課題などを今後のがん相談支援センター相談員指導者研修など、より普及しやすい方法を検討して組み込む必要性が示された。

A.研究目的

各都道府県において、がん相談支援に関する研修会が有志により企画され成果を上げている。そ

の企画の一つとして多くあげられるのが事例検討である。事例検討は、地域毎に他職種を交えて大規模に行われる場合、各がん相談支援センターの

相談員数名で小規模に行われる場合など様々に行うことが可能である。

事例検討は、具体的な相談事例を参加者で共有し、問題の本質を明らかにしたり、相談プロセスを多角的に分析したりすることにより、より良い解決策を見出したり、相談員の強みを発見できたりする。また、討議する中で、相談員それぞれの価値観を確認できたり、組織としての問題を明確化できたり、方向性の統一を図る好機となったりする場合もあり、大変有効である。

一方、事例検討を実際に行った担当者が、自己の相談支援内容を非難された、事例を提出することが憂鬱だと感じることも少なくない。事例検討を行うにあたり、教育学的な知識や留意点などを学習し、参加者皆で共有しなければ、有意義な事例検討にはならず、被害者を生み出すことになりかねない。

そこで、本研究は、がん相談支援の事例検討方法と事例検討の学習方法「がん相談支援のスキルアップを目指した事例検討の方法を学ぶ」ことを目的にワークショップを開催し、事例検討を各施設や地域で進めていく際の課題について検討を行った。

B.研究方法

1.ワークショップの企画

対象者：全国のがん診療連携拠点病院のがん専門相談員を対象に、ワークショップの目的、方法等についてメーリングリストを用いて配信し、参加を募った。相談員基礎研修(3)を修了した者で、がん相談支援センターにおいて実践を行っている20~30名に限定して募集した。また、参加希望者には、事前に自身の事例提出を条件とした。

開催日：平成25年12月14日(土)

開催時間：10:00~16:30

参加費：無料

2.ワークショップの内容

ワークショップの学習目標(表1)を設定し、

講義、演習(模擬事例検討)を組み合わせ構成した(表2)。

事前に提出した事例には、ファシリテータ(当ワークショップを企画した研究協力者)が目を通し、具体的な助言を記して個別に返却した。

C.研究結果

1.ワークショップ

12名の応募があり、当日は11名が参加した。

まず、オリエンテーションで学習目標を確認し、「事例検討の方法論、目的」について講義した。「事例」、「事例研究」、「事例検討」のそれぞれについて概説し、ケースメソッド法、インシデント・プロセス法、がん相談員にとっての事例検討の意義について解説した。また、スーパービジョンの種類、ピア・スーパービジョンの要素を取り入れた事例検討についても概説した。さらに、事例検討にあたり注意すべき点、事例検討のプロセス、エコマップの活用についても紹介した。

次に、「事例検討の作法、限界」について講義した。ここでは、対象者の同意を得る必要性、安全、安心して検討できる環境作りの重要性、資料の取り扱い、誰の問題、学びを優先するか、参加者の関係性や経験に影響される討議の成熟度、事例検討に必須の項目等を紹介した。

さらに、事例検討を適切に企画、運営できることを目的に、模擬事例検討を行った。司会役(1名)、事例提供者役(1名)、オブザーバー役(3名)、参加者役(その他全員)を決め、実際に体験し、それぞれの視点から意見交換を行った。

その後、事前に提出された事例を基に、3グループに分かれて上記同様に役割分担し、模擬の事例検討を行った。終了後には、同様に意見交換を行った。

加えて、地域の事例検討会を数年にわたり開催してきた経験者から、失敗談、工夫点などを紹介した。

2.アンケート結果(表3)

アンケートの回答数は 11 名（回収率 100%）であった。

事例検討の過程について理解が深まったに「とてもそう思う(73%)、ややそう思う(27%)」、構造や参加者属性の等により事例検討の場の作り方が変わることに理解が深まったに「とてもそう思う(91%)、ややそう思う(9%)」、事例検討の限界に関する理解が深まったに、「とてもそう思う(82%)、ややそう思う(18%)」、事例検討の場において、グループダイナミクスが重要であることへの理解が深まったに、「とてもそう思う(91%)、ややそう思う(9%)」、自施設や自分の地域（都道府県）で事例検討に取り組むことができそうであるに、「とてもそう思う(36%)、ややそう思う(55%)」と回答した。

D. 考察

事後アンケート調査の結果から、参加者は、「事例検討」という視点から教育的な知識を得て、模擬事例検討会を体験し、多角的な意見交換を行うことができたと考えられた。参加者の中には、自己の相談支援のスキルに悩むばかりでなく、がん相談支援センター内、地域の研修会の企画、運営に悩んでいる者も多いた。孤独に悩むばかりでなく、このようなワークショップで学術的に知識を得ること、模擬の事例検討会を体験すること、他職種、他の地域、組織の現状や意見を交換することは、より良い事例検討開催の契機となり、継続的な事例検討会の実現に有効であったと示唆される。

事例検討会の積み重ねは、個々の相談支援のスキルアップに貢献する。そのために、事例検討の目的の明確化や、作法、限界などについて相談員が知識を得ておくことで、安心できる環境において、学ぶ意欲を継続できる場の構築につながるこ

とが確認された。

今後さらに、がん相談支援の質向上に向けた取り組みの一つとして、事例検討を全国に普及させて行くために、今回行ったワークショップで確認された学習項目、内容、事例検討の課題の選定やフィードバック方法などを参考に、より利用しやすいものとして示していくことが必要である。また、がん相談支援センター相談員指導者研修等のプログラムとして提供することで、より効果的に全国に広めて行くことができると考えられ、国内の研修や学習の枠組みに組み込む必要性が示された。

E. 結論

がん相談支援の事例検討方法と学習方法を学ぶことを目的にワークショップを開催し、事例検討を各施設や地域で進めていく際の課題を明らかにすることを目的とした。その結果、講義および演習で構成されるワークショップの開催を通じて、事例検討に関する知識の獲得や模擬事例検討会の体験が、事例検討会開催の契機となり、相談支援のスキルアップに貢献する可能性が示唆された。また、事例検討の目的の明確化や、作法、限界などについて相談員が知識を得ておく必要性が明らかになった。このワークショップを通して得られた学習項目、内容、課題などを今後のがん相談支援センター相談員指導者研修など、より普及しやすい方法を検討して組み込む必要性が示された。

F. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

表1 学習目標

・ 「事例検討」の方法を学ぶ。 ・ 相手（相談者・協働する関係者等）の立場に立って、ものを見る視点や考えに気づく。 ・ 自分の専門性の強み・弱みに気づくとともに、自分の職場環境に活かすことができる。 ・ 自分の見方・考え方・アセスメント力の幅を広げる。 ・ 事例検討参加者全員が、お互いにピアであり、助け合える存在であることに気づく。

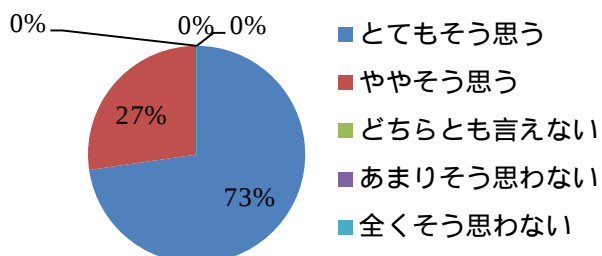
表2 当日スケジュール

時 間	内 容	担当（敬称略）
10:00	オリエンテーション 「学習目標の確認」	高山智子
10:05	講義 「事例検討の方法論・目的」	鈴木幸一
10:55	休憩	
11:05	講義 「事例検討の作法・限界」	福地智巳
11:45	昼休み	
12:45	アイスブレイク 「今年一番のマイニュース」	橋本久美子
13:00	グループワーク「参加者全員で事例検討の方法を模擬体験」 司会進行役：横川 事例提供者役：橋本 オブザーバー役：参加者3名 メンバー役：参加者9名	福地智巳 / 鈴木幸一
14:15	休憩	
14:25	グループワーク 「グループ毎に事例検討の方法を体験」	福地智巳 / 鈴木幸一
15:40	全体共有 「事例検討を体験したことでの気づきや課題」	福地智巳 / 鈴木幸一
16:00	まとめ アンケート記入	高山智子

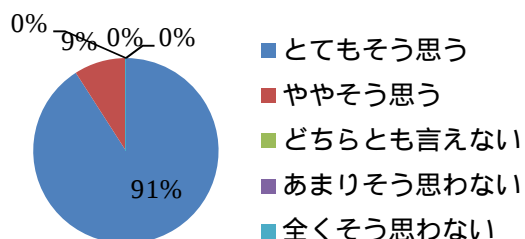
表3 アンケート結果

・ 本日のプログラムについて伺います。

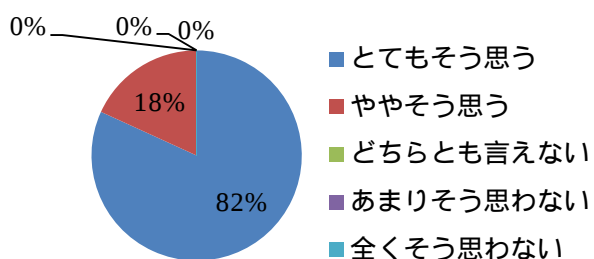
1) 事例検討の過程について理解が深まった。



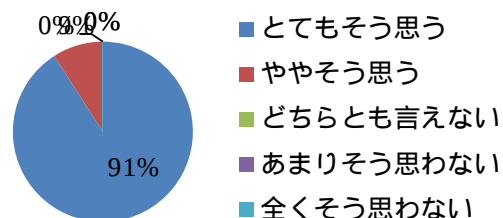
2) 構造や参加者属性等により、事例検討の場のづくり方が変わることへの理解が深まった。



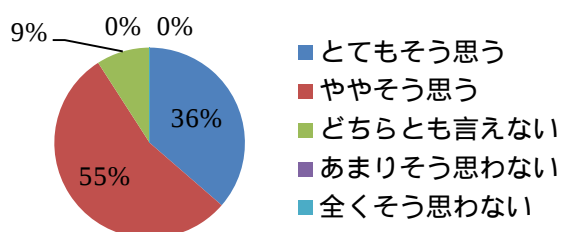
3) 事例検討の限界に関する理解が深まった。



4) 事例検討の場において、グループダイナミクスが重要であることへの理解が深まった。



5) 本日の内容を踏まえて、自施設や自分の地域（都道府県）で事例検討に取り組むことができそうである。



・その他、全体を通しての感想・意見などありましたらご記入ください。

1	講義、グループワークが、日常業務の中での事例検討において、とても勉強になった。 質の向上につながると感じた。参加してよかった。
2	成熟したグループでの事例検討は、非常に進めやすく学びも多いということを認識した。 実際に地域で行うならば、ねらいや参加者の状況に合わせた組み立てが大事であると再認識した。 少しがんばれそうです。
3	事例検討では客観的にできていることを認めていただき、とても励みになった。 明日から実践に活かそう。
4	事例検討会で、根拠のある分かち合い、モチベーションの向上ができるよう努力していきたい。 事前の提出事例にアドバイス頂き、感謝。
5	多職種による事例検討は、より内容が深まると感じた。 講義の内容を振り返り、現場で活用していきたい。
6	事例提供者のニーズに沿って事例検討を進めていくことが大切だと気づいた。 事例検討もエコマップが有効だと気が付いた。 相談支援のプロセスと同じだなと感じた。 有意義な時間を過ごすことができた。 自施設でも他職種と事例検討できるよう取り組みたい。
7	今後現場で事例検討する場面に、学んだ知識を生かしていきたい。 少人数で、顔が身近で、アットホームな研修会で、心強く思えた。
8	事例検討会の企画運営に即活用できそう。 同時に今までより十分な検討が必要であったと痛感。 ピア・スーパービジョンの3重構造を意識しゴール設定をすればより学びも大きくなるかと思った。
9	知識がほとんどない中で自分がこの研修に参加してよかったのか不安だった。 グループの討論が深まっていく過程が見えてよかった。 事例の書き方をもっと工夫して練習したいと思う。
10	まずは少し小さな集まりから検討会ができればと思う。 司会も場数をこなし、場を回す余裕が生まれれば、事例検討を行うハードルを低くできると思った。